

生物生産学専攻

【教育研究上の目的】

生物生産学専攻は、農学、林学、畜産学に自然生態学カテゴリーを加え、生物の多様性の保全を含めた生物生産に係わる資源開発ならびに環境共生など、21世紀の生物産業が担う新しい側面を視野に入れた学部の教育研究理念を基盤にしており、その専門領域知識および研究内容を更に高度に発展・継承させるべく本専攻では、植物資源生産学と動物資源生産学を主軸として食料、バイオテクノロジー、環境、健康、生理・生態、資源利用、資源保護、エコロジー等の様々な生物産業発展に寄与する高度な専門的職業人を養成するとともに、この分野で卓越した研究者となるべく人材を養成する。

【アドミッションポリシー】

近年の多種多様な生物生産に係る仕事に従事する者は、様々な生命現象を客観的に捉え、科学的な手法から課題を解決する高度な探求能力が必要とされてきており、本大学院では、そのような課題に、熱心、かつ果敢に取り組む人材を求めています。

特に次のような人材の入学を期待します。

- ・本専攻の特徴である、植物、動物を合わせた総合的な生物資源生産に関する高度な専門的知識、研究手法の習得を目指す人
- ・北海道の立地を生かした生物資源の開発や地域に根差した生物生産の実践に寄与する高度な専門的職業人を志す人

アクアバイオ学専攻

【教育研究上の目的】

アクアバイオ学専攻は、オホーツク海や沿岸海跡湖の魅力や謎の研究を通して水産資源の持続的供給を可能にする海洋生態系や環境の保全を実践できる人材の育成を目標としたアクアバイオ学科の教育研究理念に基づき、旧来の水産学や環境学にはない氷結する海域に焦点をあてたオホーツク水産生物学とオホーツク水圏環境学を柱として、氷海域特有の知識や技術を身につけ、氷海域での水産学と環境学についての専門性の高い指導的役割を果たせる職業人を養成する。

【アドミッションポリシー】

本専攻は、水圏生物や氷海域、あるいは広く水圏全体の環境について興味を持ち、かつ、水産分野や水圏環境分野におけるエキスパートの養成を教育研究の目的とする本専攻への入学を強く希望する人を求めます。また、本専攻の課程を履修するために必要とされる基礎学力を十分に備えた人を求めます。さらに、勉学ならびに研究に積極的に取り組む人を求めます。

食品科学専攻

【教育研究上の目的】

食品科学専攻は、食品の製造加工を起点として、保蔵、安全管理、バイオテクノロジーを用いた食品機能や微生物利用まで、食の入口から出口までを実験科学の立場から教育研究対象とし、国民の食生活と健康推進に関わる指導的人材の育成を旨とする。食品資源利用学分野では、農水畜産物資源の新たな利

用法を研究開発し、食品の加工製造、品質管理、プロセス制御について実践的な経験を積み、食素材から製品開発までを包括的に企画管理出来る能力を育成する。バイオテクノロジー分野では、食品、香粧品の機能や安全に関わる化合物、遺伝子、タンパク質、微生物機能の実践研究を通して、食と健康を支える研究能力を養う。両分野で食品産業界及び関連分野で指導的役割を果たせる高い専門性を有した職業人、及び、食品科学分野の発展に貢献出来る高度の研究開発力を持った人材を養成する。

【アドミッションポリシー】

本専攻では食品や香粧品の製造加工・機能性・安全性等に関わる生物化学、機能生理学、微生物学、および物性学的な研究テーマに取り組み、その分子機構を極めようとする意欲の高い人材を求めています。最先端技術を用いた基礎研究や応用開発研究に携わる中で、積極的に必要な学術知見と技術を吸収し、自らのテーマを開拓して進展させる強固な意志を持ち、論文発表を含めた国際的な活躍を目指す人材の入学を期待します。

産業経営学専攻

【教育研究上の目的】

産業経営学専攻では、学部教育でめざした地域生物産業の発展を支える経営学・経済学の理論と支援手法を体系的に習得するとともに、地域資源を活用して多様な発展を遂げている地域企業のマネジメントを経営学、財務管理、マーケティングならびに情報処理管理、農学等を統合した総合的な実学教育・研究を通して体系的に指導し、経営学・経済学の基礎的専門知識と多様な分析手法を習得し、地域生物産業ならびに関連産業・地域企業の持続的発展と総合的な問題解決力を備えた高度な専門職業人、経営コンサルタントならびに産業経営学の研究者を育成することをめざす。

【アドミッションポリシー】

本専攻では、経営学、会計学、マーケティングならびに経済学、そして情報処理・管理学、農学等の社会科学的分野から、地域資源を活用して多様な発展を遂げている地域生物産業を担う企業の持続的発展とそのため問題解決を研究テーマとする人材を求めています。

主として、①地域生物産業ならびに関連産業の持続的発展を支える経営学・経済学の新しい理論と応用技術、②多様な展開を遂げる地域企業のマネジメント理論と応用技術、③地域産業ならびに関連産業を支える環境や資源の持続的活用・保全・管理のあり方とそれらを活用した新ビジネスの創造、④問題解決のための情報技術の活用、をテーマに積極的かつ意欲的に研究に取り組む人材の入学を期待しています。

生物産業学専攻

【教育研究上の目的】

生物産業は野生動・植物の生態系の保全や人類に有用な生物資源の生産・開発に関わる産業だけでなく、食品加工製造・流通・経営・情報通信などを含む幅広い産業である。本研究科は、これらにかかわる産業界で活躍が出来るように、生物産業学に関連する幅広い学問領域の知識を備えるため、理系と文系の学問分野を相互に補完させた文理融合の教育体系に基づき、生物産業学が包括する領域の学問分野の理論と応用に関わる研究・教育を行っている。博士前期課程には「生物生産学」「アクアバイオ学」

「食品科学」「産業経営学」の4専攻、博士後期課程に「生物産業学専攻」を配置し、高度な専門知識および創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者、技術者、経営者の育成を目指している。また、生物産業学の研究・教育を行うことによって、生物産業学の発展に寄与し、地域社会のみならず国際社会にも貢献する個性豊かな人材を養成している。本大学院は、広大な北海道のなかでも特に雄大な自然のオホーツクにあり、「北の大地・オホーツクでの感動、体験、学究」をモットーとして、新しい学問である「生物産業学」を実践している。

【アドミッションポリシー】

本博士後期課程は、本研究科の博士前期課程専攻の修了者のみならず、人類に有用な生物の生産に関わる農業、畜産業、水産業、林業、ならびに生物の付加価値を高める食品産業、製造加工、これらの生産物にかかわる流通、経営、情報通信などの研究・開発と生物資源利用などを広く対象としながら、自然生態系、地球環境の保全にも寄与しながら地域の発展を真摯に取り組む人を求めます。また、本研究科の教育体制を活用し、生物産業学をさらに発展させ、地域、国際社会に貢献する個性豊かなより高度な研究者、専門職業人を目指す人材を求めています。